



川原 仁寿さん 土木職 枚方市職労



まきの や 牧野谷 奈穂さん 保育士 泉佐野市職労



山本 恵子さん 看護師 吹田市職労

# ねがいを未来につなぐため みんなの思い紡いでいこう

## 2026年 新春座談会 (後編)

新春座談会の前編では、「退院時に患者の笑顔」「問題解決で住民からお礼」「成長した子どもたちの姿」など、しんどいけれどやりがいがある仕事への思いが語られました。後編では、多発する自然災害やコロナ禍での危機的状況を乗り越え、私たちの自治体職場を未来につなぐため、「いま私が思う必要なこと」を話しあいました。

### 非常時だからこそ 住民のいのち最優先に

**生田** 地震など災害時に職場はどんな状況でしたか？  
**山本** 阪神大震災の発生時、夜間勤務だったので、明け方に震度4の強い揺れに茫然としていたら、先輩看護師に「すぐ患者の安全確認を」と促され、ハッと我に返って病棟内を巡回しました。入院患者が全員無事だったので安心したのを鮮明に覚えています。



山本 兵庫県から近いので続々と負傷された方が救急に運び込まれたと思います。被災地から受け入れた負傷者も多かったのですか？

**生田** 医療従事者も命がけだったと思います。被災地から受け入れた負傷者も多かったのですか？  
**山本** 兵庫県から近いので続々と負傷された方が救急に運び込まれたと思います。被災地から受け入れた負傷者も多かったのですか？



患者さんや子どもを守るため「何が必要なのか」

て、病棟にある必要な消毒液やガーゼなどを救急に届けました。院内のテレビで倒壊した阪神高速の映像を観て、あまりの甚大な被害にショックを受けました。

**川原** 台風などの災害時には、深夜や休日など関係なく出勤指令が来て、ただちに緊急対応体制で出勤準備をします。前の職場は道路関係で台風が直撃したとき、「倒木している」との通報を受けて、すぐに被害を受けた現場に駆けつけ対応が求められました。  
**生田** 危険な自然災害に直面しな

から作業される自治体職員のみならず、皆さんをすごく尊敬します。  
**川原** 現場に行く途中で幾つもの倒木があつて道が塞がり、たどり着けない時などは大変です。  
**牧野谷** 災害時は、子どもの安全を第一に考えます。でも、大きな地震が発生して「子どもを安全に避難させられる？」って問われると不安です。保育士などスタッフを増やさないと厳しいですよ。



**仁木** 通常業務でも現行の保育士配置基準では十分に対応できませんね。南海トラフ地震など災害時を想定して、通常業務から安心できる保育体制の充実が急務です。

### 未知のコロナ感染拡大 どう乗りこえてきたのか

**生田** 新型コロナ感染が全国的に広がり、大阪府の死者数が全国最多でしたよね。病院の現場が本当に大変だったと思います。

**山本** 未知のウイルスだったので、職場は戦々恐々でした。ウイルスの脅威に体力的にも精神的にも

も疲れました。公的病院は大阪府からの要請で、コロナ患者を積極的に受け入れていました。面会制限のため、患者さん自身の体調が悪くて不安な時でも、家族に会えず辛かったと思います。  
**牧野谷** コロナ禍の給食時には、アクリル板で仕切り毎回消毒するなど、作業量が増えました。保育士はマスク装着が基本なので口元が子どもに見えないのが致命的でした。園内プールや手をつないで散歩もできず、本当に落ち込みました。結果的に創意工夫しながら前向きにがんばれたと思います。



今回のテーマ「いのちと安全を守る最前線の職場」について、みんなと一緒に考えていきたいですね

### 次世代に紡いで 未来につなげよう

**生田** 今年のテーマ「ねがいをつなぐ」

なく」から皆さんの思いを若い人たちに伝えてもらえませんか。  
**川原** 自分が仕事をがんばるのは当然ですが、抱え込まないよう、じっくりと議論を深めていきたいと思っています。とくに若い人たちには技術の継承が必要です。



若くは、人手不足で深刻な事態です。若い人たちに保育を継承したいけど、働き続けられる環境改善が必要ですね。他の職場で経験された方が採用されています。保育する環境や労働条件がさらに良くなれば、若い人も増えると思います。

**山本** 今の労働条件は組合が要求して勝ち取ったものです。勤務時間が短縮されても育休明けの夜勤免除は子どもが1歳半までなので、もっと安心して働き続けられる労働環境の改善こそ不可欠です。

**生田** 労働組合の力で要求実現させてきたことを知らない若い方も、伝える必要がありますね。  
**仁木** そうですね。若い世代と対話して「つなぐこと」が大きな一

歩になります。一方で、仕事の魅力や誇りを感じにくい職場実態も否定できません。「公共」の役割と危機感を共有しながら、職場と組合の両輪で同じ思いを紡いでくれる仲間を増やしたいです。  
**生田** せっかく知識を積んで「さあこれから」という時に、突然退職するなんてショック。不安や悩みを抱えながら誰にも相談できず、退職する人たちに手助けになる手立てはないですか。

**川原** 民間から転職して感じるのは、住民のくらしや安全を守るためにも、長年の専門的な知識と経験の積み重ねが求められます。次の世代にも決して焦らずゆっくりと伝えていきたいですね。  
**仁木** 「ゆっくりバトンをつなぐ」という言葉がいいですね。少しずつ若い人たちに引き継いでいくために、仕事も組合も同じ目線でじっくり仲間づくりと信頼関係を大切にしたいです。



**生田** もうこんな時間ですね。思ったより盛り上がりすぎて、話が尽きず本当に楽しかったです。ありがとうございます。コメントーターの仁木書記長(右)と司会の生田書記次長

### 今月のキーワード 「阪神・淡路大震災」の名称について

1995年1月17日午前5時46分に地震が発生。政府が「兵庫県南部地震非常災害対策本部」を設置し、同日午前11時に気象庁は「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」と命名。その後、2月14日の閣議で、災害名を「阪神・淡路大震災」と口頭了解されました。政府として、神戸市中心に阪神間と淡路島北部での大地震が起こったもので、あらためて復旧・復興の統一な名称が必要と考えたからです。

### 今月のキーワード 自治体の土木職員の不足が深刻化

自治体で働く土木職員(技術職)が不足しています。2000年から20年間で約18万人から13万人台に減少し、市町村で土木職ゼロの自治体が増加傾向です。「民間との賃金格差」「若者の土木離れ」が主な要因と言われ、道路・橋梁の維持管理や災害対策など生活インフラ整備にも影響を及ぼします。67自治体のアンケート回答で「受験者数は低迷」と95%が回答。「きつい・汚い・危険」のイメージも大きく影響しています。